

古都奈良に春の訪れを告げる東大寺二月堂の修二会も本行を迎えるという今日の佳き日、奈良市立一条高等学校第六十三回卒業証書授与式を挙げていたしましたところ、奈良市長 仲川げん 様、奈良市議会観光文教委員会委員長 階戸幸一 様、本校同窓会副会長 刀祢善次 様、はじめ多くのご来賓の方々のご臨席を賜り巣立ちゆく生徒たちの門出に華を添えていただきましたことに高壇からではございますが厚く御礼申し上げます。

三百六十一名の卒業生の皆さん、卒業おめでとう。保護者の皆様、お子様は本校所定の課程を立派に終えられました。ここに至るまでの御労苦を思うとき、その喜びはいかばかりかと拝察申し上げます、心より卒業の祝意を申し上げます。誠にありがとうございます。

卒業生の皆様、思い返せば本校への入学式の日、期待と少しばかりの不安を胸に一条丸の乗組員となりました。帆に一杯の風を受けて疾風する時ばかりではなく、波が高く航路を見失いがちになりながらも、必死にオールを漕いだ時期、あるいは風が凧ぎ、どうすることもできずじっと我慢していた時等、今日の日までその航海は決して容易ではなかったことでしょう。幅広い知識と教養の修得を目指し取り組んだ日々の授業、学級・学年・全校生が一つとなり汗を流し充実感と連帯感を味わった学校行事、さらに友と同じ目標に向かって涙しながらも絆を深めた部活動など、これらすべてが皆さんそれぞれの航海日誌に綴られていることでしょう。そして、その一つ一つは皆さんに自信と成長という言葉を与えてくれたのではないのでしょうか。初代校長渡辺真澄先生が本校の開校をサンタマリア号の出帆にたとえられ、爾来「フロンティアスピリット」を建学の精神として私達は心に刻んでいます。卒業してもその精神を忘

れることなく、やがて社会に貢献できる素晴らしい人材となってくれることを期待します。

さて、今日の日を迎えられますのは、卒業生の皆さんの努力の成果ではありますが、日々励まし支えてこられた家族の方々、そして友や本校の教育に深い理解を示してくださっている方々や、皆さんの気づかないところで支えてくださった方もいます。その方々への感謝の気持ちをもって巣立って行って欲しいと思います。感謝の心は周りを豊かにし、自分を謙虚にします。

ところで、皆様はこれから仲間入りしていく社会にどのようなイメージを持っているでしょうか。高度情報化社会と言われるように私たちの周りには情報が氾濫しています。しかも世界中の情報が居ながらにして得られるという中でメディア・リテラシーすなわち必要な情報を取捨選択する力をつけなければなりません。「都合のよい」ではなく正しい情報を得ることです。正確に情報を分析し、評価できる能力が求められます。そのためには自分の意見を自分の言葉で表現し、他者の意見にも耳を傾けながらコミュニケーションをとり、敢えて反対の意見に対しても耳を傾けていく姿勢を持つことが肝要ではないでしょうか。

経営の神様と呼ばれた松下幸之助氏は『人の意見を聞いて、それに流されてはいけませんが、お互いにまず誰の意見にも感心し、学び合うという、柔軟な心を養い高めていきたいものである。』と述べておられます。様々なことが多様化していく中で柔軟な発想を持ち、正しく判断できる大人になってくれることを期待します。

二点目は最近よく耳にする「グローバル」についてです。約千三百年前、奈良は日本の都であり、経済・文化の中心でした。またシルクロードの東の終着点とも呼ばれていま

す。正倉院には中国製や遠くはペルシャ製の宝物があることから、ここ奈良は当時から世界とつながっていました。まさに奈良で育った皆さんが確かなアイデンティティをもち世界とのつながりを意識しながら新しい舞台で活躍していく、コミュニケーション力を持ち異文化を理解するとともに、既成概念にとらわれず、チャレンジ精神旺盛な人こそグローバルな人材だと思います。まさに「フロンティアスピリット」に通ずるものがあります。高い志を持ち、地域社会であるいは国際社会で貢献する気骨あふれる真のグローバルリーダーを目指してください。そして一条で学んだことを誇りに、行き詰ったときは友と、あるいは恩師とともにオールを漕いだことを思い出し胸を張って新たな航海に旅立ってください。前途洋洋たる航海に幸多からんことを祈ります。

そして、卒業生の皆様、本校の伝統と善美なる校風を受け継いだ皆様は見事にそれを在校生に引き継いでくれました。卒業生の皆様ありがとうございます。

最後になりましたが、長い間一条高校に心からご支援とご協力を賜りました保護者の皆様に改めてお礼を申し上げます。式辞といたします。

平成二十七年三月一日

奈良市立一条高等学校

校長 池 住 寿 弘